

# 第 2 章 相対参照と絶対参照

## STEP 1. 相対参照

### 1. 練習用のシートを用意しましょう

1 エクセルを起動し空白のブックを開きます。

2 シートのフォントサイズを「14」にします。

3 図のように入力します。

相対参照  
絶対参照  
複合参照

### 2. セル「C6」にセル「A1」を参照する式を入力しよう

1 セル「C6」に“半角”で「=」を入力します。

相対参照  
絶対参照

2 セル「A1」をクリックします。

セル「C6」の内容が「=A1」になりました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		=A1							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

3 「入力」の  をクリックします。

「Enter」キーを押してもかまいません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		=A1							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

セル「C6」の表示が「1」になりました。

セル「C6」に「=A1」という式を入力したので、セル「A1」に入っている「1」が表示されました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

### 3. セル「C6」をF列までコピーしましょう

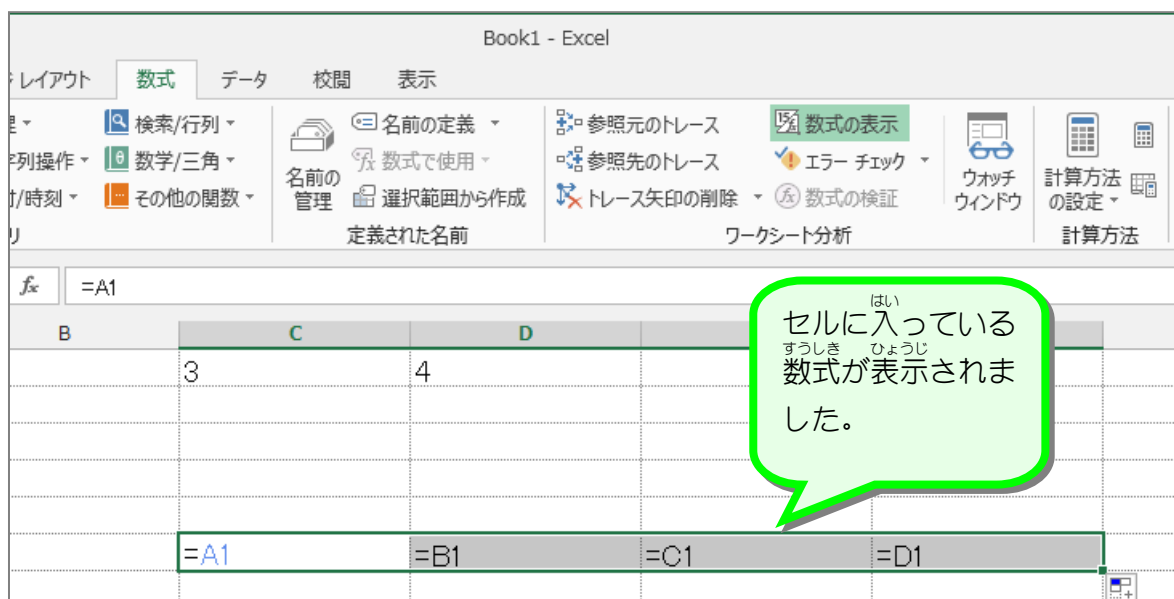
1 セル「C6」のフィルハンドルをF列までドラッグします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1							
7										
8										
9										
10										

セル「D6」から「F6」に、セル「B1」から「D1」の値が表示されました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

## 4. セルの数式を表示しましょう



### 解説 相対参照

セルの内容をコピーしたときに、参照する数式がコピー先にあわせて調整される参照方法を「相対参照」と言います。

上の例では、セル「C6」に入力した式「=A1」をF列まで横方向にコピーしましたが、コピー先のそれぞれのセルには「=B1」「=C1」「=D1」と列番号が調整されてコピーされています。

相対参照では横方向にコピーすると「列番号」が、縦方向にコピーすると「行番号」が調整されてコピーされます。

## 練習問題

- セル「C6」をセル「C9」までコピーして、<sup>ぎょうばんごう</sup>行番号が<sup>ちようせい</sup>調整されることを<sup>かくにん</sup>確認しましょう。

	B	C	D	E	F
1	2	3	4		
2					
3					
4					
5					
6		=A1	=B1	=C1	=D1
7		=A2			
8		=A3			
9		=A4			
10					
11					

### 5. 「数式の表示」を解除しましょう

Book1 - Excel

挿入 ページレイアウト **数式** データ 校閲 表示

論理 検索/行列 名前管理 数式の表示

文字列操作 数学/三角 数式で使用 数式の表示

日付/時刻 その他の関数 選択範囲から作成 定義された名前 数式の検証

関数ライブラリ

1 「数式の表示」をクリックします。

	B	C	D	E	F
1	2	3	4		
2					
3					
4					
5					
6		=A1	=B1	=C1	=D1
7		=A2			
8		=A3			
9		=A4			
10					
11					

## STEP 2. 絶対参照

- セル「C11」にセル「A1」を参照する式を「絶対参照」で入力しましょう

1 セル「C11」に“半角”で「=」を入力します。

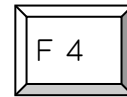
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		=							
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									

2 セル「A1」をクリックします。

セル「C11」の内容が「=A1」になりました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		=A1							
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									

3 「F4」キーを押します。



関数ライブラリ			定義された名前			ワークシート分			
A1	:	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> $f_x$	=\$A\$1						
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4					
2	2								
3	3								
4	4								
5									
6	相対参照		1	2	3	4			
7			2						
8			3						
9			4						
10									
11	絶対参照	=\$A\$1							
12									
13									
14									
15									

セル「C11」の内容が「=\$A\$1」になりました。

4 「入力」の  をクリックします。

関数ライブラリ			定義された名前			ワークシート分			
A1	:	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> $f_x$	=\$A\$1						
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4					
2	2								
3	3								
4	4								
5									
6	相対参照		1	2	3	4			
7			2						
8			3						
9			4						
10									
11	絶対参照	=\$A\$1							
12									
13									
14									
15									

「Enter」キーを押してもかまいません。

C11		: X ✓ fx		= \$A\$1							
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
1	1	2	3	4							
2	2										
3	3										
4	4										
5											
6	相対参照		1	2	3	4					
7			2								
8			3								
9			4								
10											
11	絶対参照		1								
12											
13											

セル「C11」の表示が「1」になりました。

セル「C11」に「= \$A\$1」という式を入力したので、セル「A1」の「1」が表示されました。

## 2. セル「C11」をF列までコピーしましょう

C11		: X ✓ fx		= \$A\$1							
	A	B	C	D	E	F					
5											
6	相対参照		1	2	3	4					
7			2								
8			3								
9			4								
10											
11	絶対参照		1								
12											
13											
14											
15											
16	複合参照										

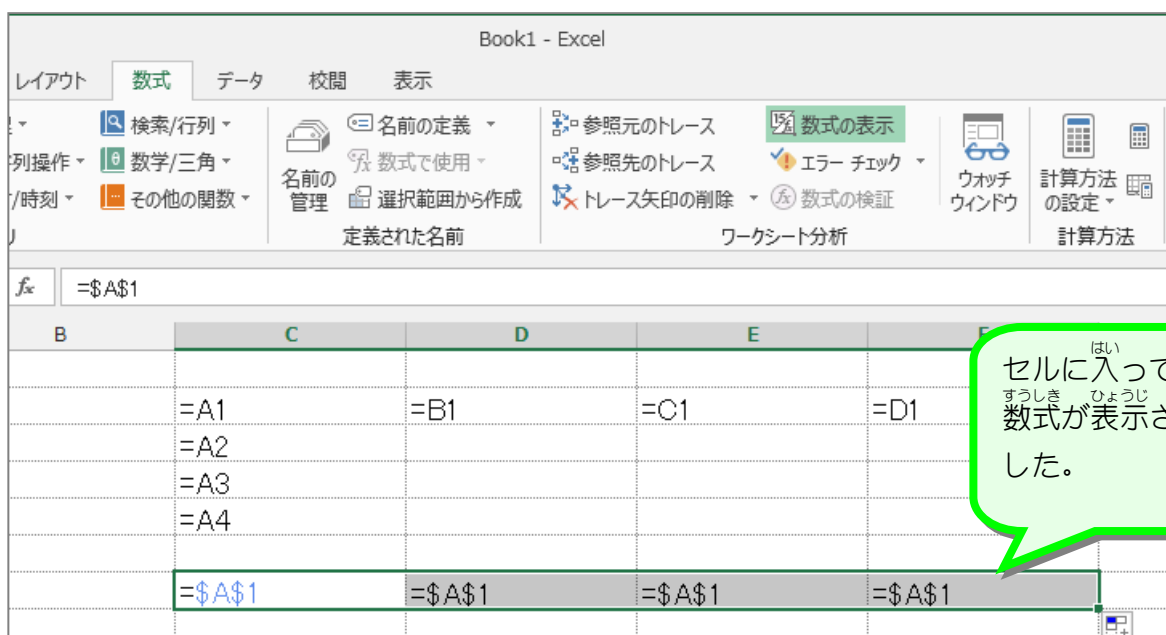
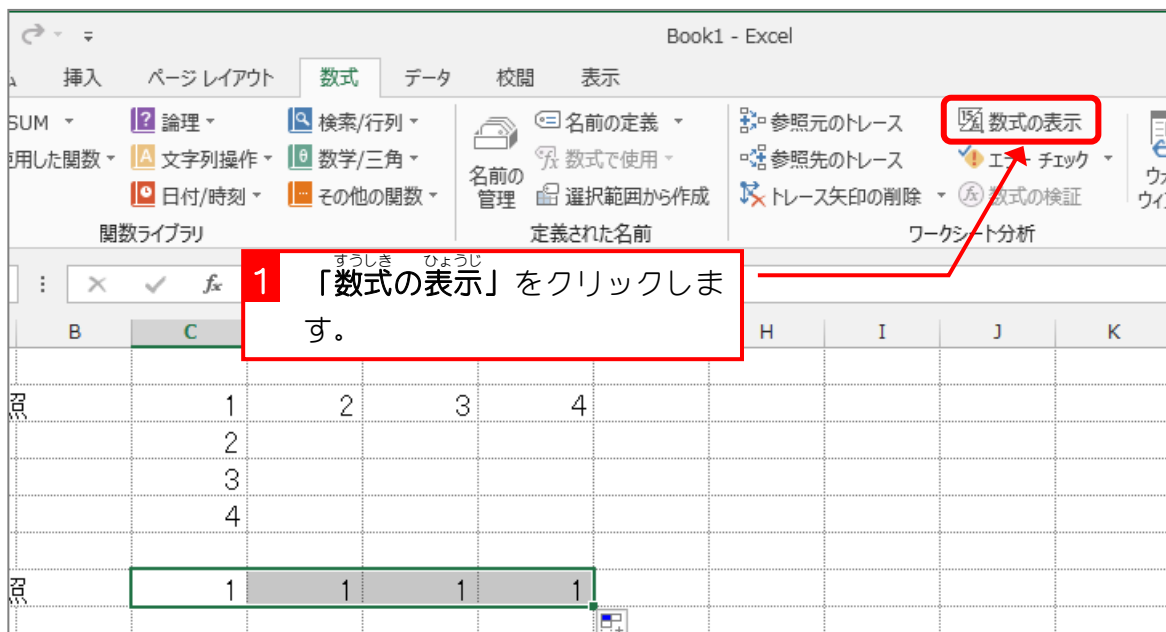
1 セル「C11」のフィルハンドルをF列までドラッグします。

関数ライブラリ		定義された名前		ワークシート分							
C11		: X ✓ fx		= \$A\$1							
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
5											
6	相対参照		1	2	3	4					
7			2								
8			3								
9			4								
10											
11	絶対参照		1	1	1	1					
12											
13											
14											
15											
16	複合参照										

セル「D11」から「F11」に、セル「A1」の値が表示されました。



### 3. セルの数式を表示しましょう



#### 解説 絶対参照

セルの内容をコピーした時に、参照する数式がコピー先にあわせて調整されない参照方法を「絶対参照」といいます。

上の例では、セル「C11」に入力した数式「 $=\$A\$1$ 」をF列まで横方向にコピーしましたが、コピー先のそれぞれのセルには、「 $=\$A\$1$ 」とすべて同じ数式がコピーされています。

列番号、行番号に「\$」を付けることで「絶対参照」となり、コピーしてもその参照は変わることはありません。

## 練習問題

- セル「C11」をセル「C14」までコピーして、<sup>ぎょうばんごう</sup>行番号が<sup>か</sup>変わらないことを<sup>かくにん</sup>確認しましょう。

	B	C	D	E	F
5					
6		=A1	=B1	=C1	=D1
7		=A2			
8		=A3			
9		=A4			
10					
11		=\$A\$1	=\$A\$1	=\$A\$1	=\$A\$1
12		=\$A\$1			
13		=\$A\$1			
14		=\$A\$1			
15					

## 4. 「数式の表示」を解除しましょう

Book1 - Excel

挿入 ページレイアウト **数式** データ 校閲 表示

論理 検索/行列 名前の変更 参照元のトレース **数式の表示** ウォッチャー

文字列操作 数学/三角 数式で使用 参照先のトレース エラーチェック

日付/時刻 その他の関数 名前管理 選択範囲から作成 トレース矢印の削除 数式の検証

関数ライブラリ 定義された名前 ワークシート分析

1 「数式の表示」をクリックします。

	B	C	D	E	F
		=A1	=B1	=C1	=D1
		=A2			
		=A3			
		=A4			
		=\$A\$1	=\$A\$1	=\$A\$1	=\$A\$1
		=\$A\$1			
		=\$A\$1			
		=\$A\$1			

## STEP 3. 複合参照

1. セル「C16」にセル「A1」を参照する式を「複合参照」で入力しましょう

	A	B	C	D	E	F
1	1	2	3	4		
2	2					
3	3					
4	4					
5						
6	相対参照		1	2	3	4
7			2			
8			3			
9			4			
10						
11	絶対参照		1	1	1	1
12			1			
13			1			
14			1			
15						
16	複合参照		=			
17						
18						
19						

1 セル「C16」に“半角”で「=」を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1	1	2	3	4		
2	2					
3	3					
4	4					
5						
6	相対参照		1	2	3	4
7			2			
8			3			
9			4			
10						
11	絶対参照		1	1	1	1
12			1			
13			1			
14			1			
15						
16	複合参照		=A1			
17						
18						

2 セル「A1」をクリックします。

セル「C16」の内容が「=A1」になりました。